

【研修報告】

「13th World Congress of The European Association for Palliative Care」に参加して

山 本 加奈子*

Ⅰ. はじめに

「13th World Congress of The European Association for Palliative Care (第13回ヨーロッパ緩和ケア協会世界大会)」はヨーロッパのチェコ共和国のプラハで開催された。本学会は、日本緩和医療学会の関連学会でもあり、2年に1回、ヨーロッパの各地で開催されている。開催日程は、5月30日から6月2日までの4日間で、ヨーロッパの各国、アメリカ、カナダ、さらに、アジアからは、日本、中国、韓国をはじめ、シンガポール、タイランド、マレーシアなど東南アジアからの参加者もあった。学会スケジュールとして、1日目は、緩和ケア、ヨーロッパのホスピスにおけるボランティア、スピリチュアルケアの教育、長期的な緩和ケアが必要となる高齢者のケアなどのワークショップ、2～4日目は、5つの基調講演や教育公演、29のシンポジウム、16のセッション、13のフリーディスカッション、ポスターディスカッション、およびポスターセッションが行われた。一般口演はなく、フリーディスカッションとして、メインテーマに沿った口演による研究発表とディスカッションが行われた。また、多くの研究発表は、ポスターセッションの中で行われ、2日間で864演題の発表があった。ポスターセッションは、指定された時間内に適宜研究者とディスカッション、質疑応答を行うスタイルで、さらに、ポスターディスカッションとして、ポスターセッションの中から、メインテーマに沿った演題が、学会から選出され、それぞれのテーマに沿って、発表、ディスカッションが行われた。ワークショップは、事前予約制度で、殆どのワークショップが定員を超えており、学会参加人数に比して、定員が少なく、参加が難しい状況であった。

Ⅱ. 学会発表の内容

ヨーロッパでは、がん患者に対し、アロマセラピー

を含めた代替・補完療法がさかんに使用されている。アロマセラピーはその一つであり、がん患者の生活の質 (Quality Of Life : QOL) をより改善することが期待できる。しかし、アロマセラピーを含む代替・補完療法は、日本国内では、あまり普及しておらず、臨床現場において患者ケアとして、十分活用されていないのが現状である。このような現状の中、筆者はこれまで、病院内の緩和ケアチームと連携し、緩和ケアとしてのアロマセラピーを実践してきた。今回は、緩和ケアを受けるがん患者を対象に、アロマセラピーマッサージが与える効果を明らかにすることを目的に、質的に研究を行ったものを発表した。

対象は、病院施設から、緩和ケアを受ける5名の患者を選定した。これらの患者に30分間のアロマセラピーマッサージを、週に1回、4週間を上限に施術した。アロマセラピーの施術中に語られるナラティブ (語り) のデータを収集し、また、アロマセラピーマッサージ施術後にインフォーマルインタビューを行った。すべての過程において、対象者のプライバシーを遵守し、安全の確保には十分留意して行った。データは内容分析の手法で質的帰納的に分析を行った。分析の結果、アロマセラピーマッサージの効果として、【身体的症状の改善 (疼痛、倦怠感、浮腫、不眠)】、【うつ状態の軽減】、【ケアを受けているという実感】、【タッチによるコミュニケーションの促進】、【特別な時間】、【病気への意味づけ】、【エンパワメント】の7つのカテゴリーに分類した。アロマセラピーマッサージは、身体的症状の改善に付け加えリラクゼーションの時間を提供する機会となった。マッサージによる人の手のタッチと精油の効果により、患者のうつ状態や不安を軽減し、現在の身体的・精神的状態について語りを促すことができた。さらに、アロマセラピーの時間をご褒美、特別な時間と捉え、語ることで、病気への意味づけがなされ、がんにうち勝っていくエンパワーに向

* 日本赤十字広島看護大学

かっていた。これらの結果から、アロマセラピーマッサージは身体的症状の改善だけでなく、緩和ケアを受けているがん患者の生活の質の向上にも寄与できる可能性が示唆された。

Ⅲ. おわりに

今回、筆者は、初めて海外で開催される国際学会に参加した。緩和ケアという領域の中で、重視されているスピリチュアルケアについて、特に関心が高く、ヨーロッパのスピリチュアルケアについても、多くのセッションが設けられていた。スピリチュアルは、各国の宗教や文化背景に大きく影響していることがわかり、このような国際学会でのディスカッションが非常に興味深く、大変学びになった。

謝 辞

本研究にご協力くださいました対象者の皆様に深く感謝いたします。また、今回の国際学会に出席する機会を与えてくださいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。



ポスター発表会場の様子



学会会場正面



学会会場からのプラハ市街の眺め